



2020年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年1月10日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 2020年1月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年2月期第3四半期の業績(2019年3月1日～2019年11月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第3四半期	31,616	0.9	1,406	12.1	1,471	12.7	892	15.7
2019年2月期第3四半期	31,901		1,254		1,306		1,058	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第3四半期	85.30	
2019年2月期第3四半期	101.16	

(注) 当社は、2018年2月期第3四半期は連結業績を開示しておりましたが、2019年2月期第2四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、2019年2月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第3四半期	19,950	14,737	73.9
2019年2月期	18,948	14,530	76.7

(参考) 自己資本 2020年2月期第3四半期 14,737百万円 2019年2月期 14,530百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期		0.00		65.00	65.00
2020年2月期		0.00			
2020年2月期(予想)				65.00	65.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年2月期の業績予想(2019年3月1日～2020年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,000	3.7	2,580	10.3	2,600	7.8	1,600	1.8	152.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年2月期3Q	12,446,700 株	2019年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	2020年2月期3Q	1,978,814 株	2019年2月期	1,978,814 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年2月期3Q	10,467,886 株	2019年2月期3Q	10,467,975 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、海外経済の減速や米中の貿易摩擦の先行き不透明な状況を背景に、設備投資や輸出の成長に減速がみられる等、企業収益に弱さがみられました。また、雇用、所得環境は伸び悩み、個人消費の足取りは重く力強さに欠け、国内外の景気の先行きに対する警戒感が強まっております。

食関連業界におきましても、消費税増税による可処分所得の減少が消費者の生活防衛意識を高め、個人消費の停滞が懸念される先行き不透明な状況にある中で、台風等の度重なる自然災害の影響により一部の商業施設において営業時間の短縮や休業等の影響が出るなど、厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社は、企業メッセージ「おいしさ、育む。」の想いのもと、「おいしさを磨く、発想する匠」として、豊富な商品知識により商品から食卓の彩りをご提案できるよう、引き続き商品力の強化と、魅力的な売場の構築を図りました。各種のキャンペーンによる販売促進企画により、購買意欲の活性化と売上の底上げを図るとともに、消費税増税等の影響から変化するお客様のニーズに対応するため、商品構成の見直し、「旬」の季節をとらえた期間限定の商品やメニューの開発に注力しました。

出退店・改装につきましては、駅ビル施設の「ekie広島柿安ダイニング」を出店した他、牛肉の丼料理を提供する「柿安 Meat Express」を中心に計19店を出店するとともに、9店の改装、業態転換1店を含め、計18店の退店を行いました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は31,616百万円(前年同期比0.9%減)、営業利益は1,406百万円(同12.1%増)、経常利益は1,471百万円(同12.7%増)、四半期純利益は892百万円(前年に連結子会社の吸収合併にかかる抱合せ株式消滅差益479百万円を計上していたことから前年同期比15.7%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業におきましては、日常使い商品である「小間きれ」の見直しを行った他、11月29日(いい肉の日)をはじめとした販売促進企画による販売拡大の取り組みや、豊富な商品知識をもとに、おすすめ商品による食卓のご提案を行う等、商品力をより高めるための提案力向上に努めました。

出退店・改装につきましては、マルイファミリー溝口精肉店を改装しました。

この結果、当事業の売上高は10,720百万円(前年同期比0.1%減)、セグメント利益は1,061百万円(同7.2%増)となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業におきましては、『大海老マヨ』、『黒毛和牛 牛めし』をはじめとした人気商品を詰め合わせた弁当の展開を強化した他、薬物野菜や根菜、海鮮のサラダとパスタを和えて楽しむ「シェイクパスタ」等、企画商品の充実による売場の魅力向上に注力しました。

出退店・改装につきましては、駅ビル立地の「ekie広島柿安ダイニング」他、計4店を出店するとともに、6店を改装、2店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は9,828百万円(前年同期比2.2%減)、セグメント利益は744百万円(同4.1%減)となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業におきましては、『栗おはぎ』、『秋芋どら焼』、『モンブラン団子』等、「旬」の季節をとらえた限定商品を展開するとともに、『栗大福』、『姫りんご大福』等、人気のフルーツ大福シリーズの拡充による活性化に努めました。

出退店につきましては、2店を出店する一方、13店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は5,327百万円(前年同期比1.4%減)、セグメント利益は240百万円(同39.3%増)となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業におきましては、ビュッフェ業態の三尺三寸箸では、北から南まで全国各地のご当地料理を集結させた「B級グルメフェア」を期間限定で開催するなど、新たな企画を通して活性化に努めました。また、フードコート業態においても継続的にメニューの改良を進め、『牛カルビ&牛ミルクフィユ井』等、「肉」の旨味を活かしたメニューの提案による活性化に努めました。

出退店・改装につきましては、13店を出店するとともに、2店を改装、3店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は4,089百万円(前年同期比1.4%増)、セグメント損失は80百万円(前年同期は31百万円のセグメント利益)となりました。

(e) 食品事業

食品事業におきましては、「肉の老舗」が作り上げた、牛肉の旨味が際立つ、じっくり煮込んだこだわりの『ビーフシチュー』の展開を開始しました。また、コンビニエンスストアの冬ギフトへの展開等、販路拡大による売上高の伸長に継続的に取り組みました。

この結果、当事業の売上高は1,650百万円(前年同期比2.3%減)、セグメント利益は305百万円(同15.5%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ1,002百万円増加し、19,950百万円となりました。

流動資産は934百万円増加し、11,396百万円となりました。主な要因は、売掛金の増加1,188百万円及び仕掛品の増加133百万円と現金及び預金の減少548百万円等であります。固定資産は67百万円増加し、8,554百万円となりました。主な要因は、建物の増加129百万円と差入保証金の減少60百万円等であります。

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ795百万円増加し、5,213百万円となりました。

流動負債は799百万円増加し、4,561百万円となりました。主な要因は、買掛金の増加426百万円及び賞与引当金の増加168百万円並びに未払金の増加161百万円等であります。固定負債は3百万円減少し、651百万円となりました。主な要因は、長期未払金の減少4百万円等であります。

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ206百万円増加し、14,737百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加212百万円とその他有価証券評価差額金の減少6百万円等でありませ

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2019年4月10日に発表いたしました2019年2月期決算短信〔日本基準〕(非連結)に記載しております予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2019年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,214	6,665
売掛金	2,567	3,755
商品及び製品	314	397
仕掛品	166	299
原材料及び貯蔵品	171	211
その他	27	67
流動資産合計	10,462	11,396
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,231	3,360
土地	2,224	2,224
その他(純額)	805	802
有形固定資産合計	6,261	6,387
無形固定資産	247	285
投資その他の資産	1,977	1,882
固定資産合計	8,486	8,554
資産合計	18,948	19,950
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,216	1,643
未払法人税等	443	183
賞与引当金	375	543
役員賞与引当金	36	27
その他	1,690	2,164
流動負債合計	3,762	4,561
固定負債		
資産除去債務	581	581
その他	73	69
固定負債合計	655	651
負債合計	4,417	5,213
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	15,739	15,952
自己株式	△3,542	△3,542
株主資本合計	14,541	14,753
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△10	△16
評価・換算差額等合計	△10	△16
純資産合計	14,530	14,737
負債純資産合計	18,948	19,950

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2018年3月1日 至2018年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自2019年3月1日 至2019年11月30日)
売上高	31,901	31,616
売上原価	16,143	16,072
売上総利益	15,757	15,544
販売費及び一般管理費	14,502	14,138
営業利益	1,254	1,406
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	1
受取保険金	—	17
工事負担金等受入額	29	26
受取補償金	13	—
その他	23	24
営業外収益合計	68	71
営業外費用		
支払利息	0	—
損害金	11	—
その他	5	5
営業外費用合計	17	5
経常利益	1,306	1,471
特別利益		
固定資産売却益	13	—
抱合せ株式消滅差益	479	—
特別利益合計	492	—
特別損失		
固定資産除売却損	50	12
減損損失	182	0
その他	59	2
特別損失合計	293	15
税引前四半期純利益	1,505	1,456
法人税、住民税及び事業税	522	525
法人税等調整額	△76	37
法人税等合計	446	563
四半期純利益	1,058	892

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,732	10,045	5,403	4,031	1,688	31,901	—	31,901	—	31,901
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,080	14	37	17	746	1,896	—	1,896	△1,896	—
計	11,813	10,060	5,440	4,049	2,434	33,798	—	33,798	△1,896	31,901
セグメント利益	989	776	172	31	264	2,235	—	2,235	△980	1,254

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。

2. セグメント利益の調整額△980百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,012
百万円及びその他調整額32百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属
しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」及び「和菓子事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ178百万円、4百万円
計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間において、182百万円であります。

II 当第3四半期累計期間(自2019年3月1日至2019年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,720	9,828	5,327	4,089	1,650	31,616	—	31,616	—	31,616
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,455	15	29	12	762	2,276	—	2,276	△2,276	—
計	12,176	9,844	5,357	4,102	2,412	33,892	—	33,892	△2,276	31,616
セグメント利益 又は損失(△)	1,061	744	240	△80	305	2,271	—	2,271	△865	1,406

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△865百万円には、各報告セグメントに配分していない全社
費用△899百万円及びその他調整額34百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメン
トに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間において、0百万円であります。